

親子の学び応援講座



〈 目 的 〉 本県における家庭教育の推進に向けて、湯川村立ゆがわ幼稚園保護者会を対象に講座を行い、親子の学び・家庭での実践活動を支援する。

湯川村立ゆがわ幼稚園 保護者会における講座

- ◆と き 令和7年7月10日（木）
- ◆と ころ 湯川村立ゆがわ幼稚園
- ◆参加者 70名（保護者、教職員）
- ◆講 演 演題：「きみのことがだいすき」 ～こころの子育て～
講師：親業訓練

1 <テーマ設定の理由及び実践活動のねらい>

講演会を通し、子育てに関する不安の軽減やよりよい親子関係の構築等、家庭教育力、実践への意識向上を図る。

2 <内 容>

- ・ 「子ども」も「親自身」も大切に親子の関係づくりのために、3本の柱（「聞く」「話す」「話し合う」）が重要となること。
- ・ 『能動的な聞き方』をすることで自己肯定感が育まれ、自己決定能力が磨かれるようになり、攻撃的な「あなたメッセージ」よりも「わたしメッセージ」で伝えた方が子どもの心に届くという講演内容だった。
- ・ 実際に、寸劇を通して子どもの心に届く具体的な伝え方も知ることができ、多くの保護者から、気づきや学びの言葉・感想をいただき、改めてこころの子育てや愛し、愛されていると感じるコミュニケーションの大切さについての共感を得ることができた。



参加者の感想から

- ・ 忙しい時間やゆとりがない時こそ、コミュニケーションが大切だと思いました。
- ・ 「この子はこの子を生きている」という言葉にハッとしました。親だから、親としてという責任感が強く、つい押しつけのように声かけをしていたかも…と思いました。子どもの声を受け止めて、言い換えてみて、気持ちを汲んであげるだけでも、子どもの気持ちが落ち着きお互いに良い結果が得られるかもしれないと思いました。
- ・ あなたメッセージを控えられるような心の余裕をもち、子どもと向き合っていきたいです。
- ・ 日頃、子どもとのコミュニケーションの取り方に反省点はたくさんあるが、今日の講演で教えていただいたことを家でも早速、実践してみたいと思います。特に、思春期真っ只中の兄弟で試してみるのが楽しみです。
- ・ 親の困っていることも子どもに伝えてよいのだと知ることができました。これからは伝えていこうと思います。
- ・ 自分に余裕がなく、子の思いに寄り添うことがうまくできていなかったので心掛けていきたいです。自分の職場が病院なので、患者様との対応も同様だと改めて痛感しました。
- ・ 非常に興味深いお話をしてくださり、ありがとうございました。寸劇の場面では、まるで子と私を見ているようでハッとさせられました。客観的な視点からの気づきは、本当に大切だと改めて思いました。資料も今後の参考にさせていただきます。